

キャラクター名
渡来 創 (わたらい そう)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	
	パロール					
オプション			年齢	28	性別	男性
覚醒	渴望	衝動	闘争	初期侵食率	33	%
出自	疎まれた子	経験	平凡への憧れ	邂逅	貸し	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	16
感覚	3	1	3			7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	2	0	0			2	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハンドレッドガンズ:ボウガン	射撃	7r+4	-	5		攻撃力+5 侵食値+3
コンボ:アルバレスト(侵食値100%↓)	射撃	8r+4		5+3 (8)		2→3+4 侵食値+7
コンボ:クインクレイン(侵食値100%↑)	射撃	12r+4		6+6+6 (18)		2→3+4+5 装甲値無視 侵食値+11

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
シューターズジャケット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:戦闘人格(デュアルフェイス)	P	N		
ライノ	P 有為	N 恐怖		
島津	P 感服	N 疎外感		
縁人	P 同情	N 憐憫		
まるがれ	P 同情	N 無関心		
	P	N		
あけみ	P 親近感	N 憐憫		

最大財産P: 8 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:モルフェウス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: クリ値-lv								
ハンドレッドガンズ	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器を作成、装備 攻撃力+{lv+4}								
カスタマイズ	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 判定ダイス+lv								
巨人の斧	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃力+ (LVx3.)								
クリスタライズ	1	4	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果: 攻撃力+ (LVx3) /シナリオ三回まで								
時の棺	1							
効果: ★								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

いつも両目にクマをこさえて薄ら笑いを浮かべている。
影は非常に薄く、何処にでも紛れ込む特性あり。
行動の機敏にムラがあり、主張の少ない物静かな言動の持ち主。

いつも携帯している犬人の人形にはテオという人格が存在。渡来が本当に執りたい自分の言動を投影している。
彼が生まれて初めて創出したオブジェクトであり、戦闘時はそれを大小様々な聲(いしゆみ)に変化させて戦う。
こまったとき、よく受話器を耳に当てるようにしてコミュニケーションをとる模様が目撃されている。
なお、完全にテオにスイッチするとマシンガントークの陽気な乱暴者に変貌。(Dロイス人格)

テオ時は戦闘において有用だが、パフォーマンス発揮のムラを煙たがられる。
様々な部署を転々と移動した後、当部署に配属された。

(人形入手経緯)
オーヴァードとしての覚醒したとき、彼は自らの能力を母親に誇ってほしくて、彼女の目の前で真っ赤なバラの花束を作り出した。
しかし、毒々しい創造の始終を目の当たりにした母親は恐れをなし、彼に罵声を浴びせ自宅から追い出してしまう。

その後、UGNに保護されるまでの間、行き場のない強烈な孤独感の矛先を向けるため、就寝時はいつも抱いていた人形を思い起こして創出した人形を"テオ"と命名し、常に携帯するようになった。
テオはいわば創が"こうなりたかった"要素の集合体。自分の理想像を投影するスクリーンであったが、彼とのコミュニケーション(なりきり独り言)に没頭するうち、その言動と本来の自分の精神の境目が曖昧になってしまった(Dロイス)。